

日本産業衛生学会

## 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学地域健康医学教室内  
専用TEL・FAX.0744-22-1801  
発行責任者・車谷典男(地方会会長)  
http://jsohkink.umin.jp

## 第59回近畿地方会総会および特別講演シンポジウムのご案内

日本産業衛生学会近畿地方会 会長 車谷典男

日本産業衛生学会近畿地方会総会を開催いたします。会員の多数のご参加をお待ちしています。

日 時：平成23年6月18日(土)13:00～17:00

会 場：大阪市立大学医学部学舎4階大講堂

## ＜地方会総会＞(13:00～13:50)

- (1)平成22年度事業報告および平成22年度決算報告
- (2)平成23年度事業計画(案)および平成23年度予算(案)
- (3)その他

## ＜特別講演・シンポジウム＞(14:00～17:00)

## 特別講演・シンポジウムの企画の意義

未曾有の国難とも言うべき、東日本大震災により多くの人命と共に、町そのものが消失し、衣食住と職場を一挙に失なわれた方も多かったとの報道に心が痛みます。被災者の方々へは心よりお見舞い申し上げますと共に、復興を願って我々もできる限りの支援をしていきたいと思えます。

さて、産業衛生学会近畿地方会では毎年6月に総会と特別講演並びにシンポジウムを実施しております。今年度は下記のごとく「若年労働者におけるメンタルヘルス不調を考える」をメインテーマに特別講演2題とシンポジウムを企画いたしました。

厚生労働省の調査によれば、うつ病患者数は1999年には24万人でしたが、2008年には70万人を超え、この10年間で約3倍になっております。また、自殺者も1998年に3万人を超え、昨年まで13年連続で3万人を超えた状況が続いています。職域でもメンタル不調者の発症は依然高水準であり、公務員の調査でも休業率は増加傾向を示しています。2008年の労務行政研究所の調べでは、この3年間でメンタルヘルス不調者が「増加している」と回答した企業は55.2%と過半数に達しており、特に「30代」が51.9% (2005年調査時、39.6%)、次いで「20代」(同27.6%)と、20代～30代の若年労働者の増加が目立っています。

特に最近では若年労働者を中心に、従来型のうつ病とは違った現代型うつ病、非定型うつ病、そして適応障害やパーソナリティ障害などのメンタルヘルス不調者や休業者が増加しており、またこれらにより離職をするものもかなり多くなっています。そして、これらの若年労働者のメンタルヘルス不調者の中に、アスペルガーなどの発達障害も含まれているのではないかと考えられております。

今回は、この若年労働者のメンタルヘルス不調について、さらに理解を深めるために、2題の特別講演を予定しております。まず発達障害に造詣の深い辻井農亜先生に発達障害の現状や基本的な考え方についてご講演をいただき、次に産業精神衛生の第一人者である夏目 誠先生には、若年労働者のメンタルヘルス不調の特徴や産業医療職の考え方、対処方法などについて事例を交えてご講演いただきます。これらに引き続き、シンポジウムでは、現場の産業医と産業看護職に職域での若年労働者を中心としたメンタルヘルスの現状や対策などをお話頂き、その後、上記の二人の講演者を交えて総合討論を予定しております。

多数の皆様方にご参加いただき、活発な討論がなされることを期待しております。

(学術担当 廣部一彦)

メインテーマ：若年労働者におけるメンタルヘルス不調を考える

## 1)特別講演(14:00～15:20)

座長：圓藤吟史(大阪市立大学大学院教授)

演者1. 辻井農亜(近畿大学医学部精神神経科学教室講師)

「発達障害とどうむきあうか」

演者2. 夏目 誠(樟蔭女子大学教授)

「若年労働者におけるメンタルヘルス不調のポイントと考え方」

## 2)シンポジウム(15:30～17:00)

「職域における若年労働者のメンタルヘルス対策」

座長：伊藤正人(パナソニック健康保険組合 健康管理センター副所長)

長澤孝子(積水化学工業(株) 滋賀栗東工場 保健師)

演者：赤築綾子(三井化学大阪工場健康管理室、産業医) 「産業医の立場から」

演者：玉木登志枝(ダイハツ工業人事総務部安全衛生保健室、保健師)

「産業看護職の立場から」

コメンテーター

辻井農亜(近畿大学医学部精神神経科学教室講師)

夏目 誠(樟蔭女子大学教授)

＜参加費＞

産衛学会員：無料

産衛学会員で日医認定産業医単位希望者：3,000円

非産衛学会員：2,000円

非産衛学会員で日医認定産業医単位希望者：5,000円

＜単位申請＞

1. 日医認定産業医単位取得

2. 産業看護職継続教育システムによる単位認定取得

日本医師会認定産業医制度産業医学研修の生涯研修(3単位)を申請中です。

医師の方で単位取得希望者は下記要領にてお申し込みください。

【申し込み方法】様式自由

①6月18日(土)特別講演・シンポ参加希望、②氏名(ふりがな)、③連絡先住所・電話・FAX、④所属医師会名 ⑤日本産業衛生学会員であることを明記

①から⑤を明記の上、日本産業衛生学会近畿地方会事務局あてにて、FAX(0744-22-1801)でお申し込みください。

【受け付け開始】

5月23日(月)から開始し、定員(100名)になり次第締め切ります。

FAX受信時間帯 9時～17時(但し、土曜日および日曜日を除く)

【可否の連絡】

受講票送付にて回答とし、お断り(定員超過)の場合はFAXでご連絡します。

※産業看護職継続教育実力アップ単位取得の申し込みは、当日産業看護部会受付で整理票を渡しますので、事前申し込みは必要ありません。

## 平成22年度近畿地方会収支報告および平成23年度予算（案）

### 1. 収入の部

科 目	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	摘 要
(1) 会費収入	2,000,000	2,474,000	2,200,000	
正会員会費収入	1,700,000	1,994,000	1,900,000	過去の実績
特別会員会費収入	300,000	480,000	300,000	総会特別講演等当日参加費
(2) 助成金収入	1,890,000	2,116,300	1,890,000	
日本産業衛生学会助成金収入	1,890,000	1,897,500	1,890,000	1,260×1,500円
本部選挙交付金		218,800	0	
(3) 事業収入	200,000	180,000	150,000	
広告料収入	200,000	180,000	150,000	
(4) その他収入	300,500	468,769	500	
受取利息	500	554	500	
産業衛生講座講習会余剰金		168,215		講座は22年度で終了
役員選挙積立金より	300,000	300,000	0	
当期収入合計	4,390,500	5,239,069	4,240,500	
前期繰越収支差額	3,324,437	3,324,437	4,373,886	
収入合計	7,714,937	8,563,506	8,614,386	

### 2. 支出の部

科 目	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	
(1) 事業費	3,350,000	2,499,715	3,550,000	
①機関誌費	1,450,000	1,117,791	1,300,000	
印刷費	500,000	494,040	500,000	
広報活動費	150,000	25,705	150,000	
通信運搬費	800,000	598,046	650,000	
②助成金支出	1,150,000	850,000	1,400,000	
近畿産衛学会開催助成金支出	400,000	400,000	500,000	活性化のため増額
産業医部会助成金支出	100,000	100,000	150,000	〃
産業看護部会助成金支出	100,000	100,000	150,000	〃
産業技術部会助成金支出	100,000	100,000	150,000	〃
研究会補助金	300,000	150,000	300,000	
研修会補助金	150,000	0	150,000	
③例会事業費	750,000	531,924	750,000	
地方会総会開催費	500,000	441,924	500,000	
学術担当費	250,000	90,000	250,000	
④調査研究事業費	0	0	100,000	産業看護職実態調査
(2) 管理費	2,250,000	1,689,905	1,720,000	
①運営費	1,750,000	1,222,361	1,220,000	
幹事、代議員会費	150,000	122,880	120,000	
広報渉外費	1,000,000	210,000	1,000,000	
役員改選費	600,000	834,781	0	
運営雑費		54,700	100,000	
②事務費	500,000	467,544	500,000	
事務局費合計	400,000	400,000	400,000	
備品	0	0	0	
消耗品費	100,000	67,544	100,000	
(3) その他支出	0	0	400,000	
役員改選積立金支出	0	0	400,000	24年度実施予定の積立金
(4) 事業積立金			1,000,000	
日本産業衛生学会開催準備金	0	0	500,000	
産業医・産業看護全国協議会開催準備金	0	0	500,000	
(5) 予備費	490,000	0	500,000	
当期支出合計	6,090,000	4,189,620	7,170,000	
当期収支差額	-1,699,500	1,049,449	-2,929,500	
次期繰越収支差額	1,624,937	4,373,886	1,444,386	
支出合計	7,714,937	8,563,506	8,614,386	

財産目録 (1)ノートパソコン・デル1台 (2)FAX(0744-22-1801) Panasonic 1台  
22年度の会計年度は平成22年3月1日から平成23年2月28日まで。

## 平成22年度近畿地方会事業報告

### 1. 第58回近畿地方会総会および基調講演・シンポジウム

日 時：平成22年6月5日(土) 13:00～17:00  
場 所：大阪市立大学医学部学舎

#### I. 総会

5月15日現在の地方会員数は1266名、出席者74名(委任状386名)で、会員の5分の1以上の出席により総会は成立(地方会会則第18条)。平成21年の事業報告・収支決算報告と平成22年度の実業計画案・収支予算案を一部修正の上承認。

#### II. 学術講演会(参加者148名・うち学会員68名)

主 題：タバコフリー・快適職場と禁煙サポート  
—今一度、職場の喫煙対策をかんがえる—  
基調講演：大和 浩(産業医科大学産業生態科学研究所健康開発科学研究室教授)  
「受動喫煙防止に係る厚労省の新たな指針と事業場でとるべき喫煙対策」

#### シンポジウム

座 長：佐野 敦(パナソニック(株)本社健康管理室)  
松本泉美(神戸常盤大学看護学科)

- (1) 「健診を活用した職場の禁煙推進」：  
繁田正子(京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学講師)
- (2) 「いつでも・どこでも・だれでもできる禁煙運動」：中村正和(大阪府立健康科学センター健康生活推進部長)
- (3) 「屋内完全禁煙化の実現—喫煙行動への影響と今後の課題—」：川谷暁夫(パナソニック(株)高槻健康管理室)
- (4) 「職域における禁煙指導の実際」：葛目百合(大阪府警察本部健康管理センター保健師)

### 2. 第50回近畿産業衛生学会

(参加者133名・うち学会員113名)

日 時：平成22年11月14日(日)  
場 所：ピアザ淡海滋賀県立県民交流センター  
(大津市におの浜一丁目1番20号)

学会長：木村隆(KCC財団法人近畿健康管理センター理事長)

- 1) 一般講演16題
- 2) 教育講演「産業歯科部会への期待」  
座長：中西一郎(東レ)  
演者：加藤 元(日本産業衛生学会産業歯科保健部会長)
- 3) 特別講演「産業保健における、一隅を照らす」  
座長：大道重夫(滋賀保健研究センター)  
演者：藤波源信(比叡山延暦寺千日回峰行者)
- 4) 基調講演「非正規雇用の現状」  
演者：脇田 滋(龍谷大学法学部政治学科)  
座長：埴田和史(滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門)
- 5) シンポジウム「一隅を照らす、産業保健の忘れ物」  
座長：木村 隆(近畿健康管理センター)  
埴田和史(滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門)

#### シンポジスト

- (1) 小規模事業場と高齢者の特徴、健康診断データから：寺田哲也(近畿健康管理センター医療統括本部)
- (2) 介護労働の現状：北原照代(滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門)
- (3) 女性が働きやすい職場と企業の対応：志摩梓(平和堂健康管理室)

### 3. 代議員会

第1回 平成22年6月5日(土)  
大阪市立大学医学部学舎

第2回 平成22年11月14日(日)  
滋賀県ピアザ淡海滋賀県立県民交流センター

### 4. 幹事会

- 第1回 平成22年6月5日(土)  
大阪市立大学医学部学舎
- 第2回 平成22年9月6日(月)  
大阪市立大学医学部学舎
- 第3回 平成22年11月14日(日)  
ピアザ淡海滋賀県立県民交流センター
- 第4回 平成23年2月21日(月)  
大阪市立大学医学部学舎

### 5. 近畿地方会ニュース

年4回(82号～85号)発行した。毎号12頁から構成し、全地方会員と関係者に郵送した。

### 6. 近畿産業医部会

(1) 第15回近畿産業医部会研修会

日 時：平成22年9月11日(土) 14:00～17:00  
会 場：大阪市立大学医学部学舎4階大講義室  
実行委員長：永田秀敏

メインテーマ『雇用の多様化と安全衛生の課題』  
基調講演

座 長：山田誠二(産業医部会会長)  
働き方が多様化する中での産業保健サービスの課題(森見爾産業医大副学長)

シンポジウム「校内で働く非正規社員の有害業務管理について」

座 長：豊川彰博(大阪ガス(株)健康開発センター)  
永田秀敏(パナソニックエレクトロニクスデバイス(株)本社健康管理室)

#### シンポジスト

萩原 聡(三菱電機(株)伊丹製作所健康増進センター)

櫻木園子(財団法人京都工場保健会)

坂本史彦(パナソニック(株)産業衛生科学センター)

永田秀敏(パナソニックエレクトロニクスデバイス(株)本社健康管理室)

(2) ケースカンファレンス研修会

職場診断計3回、職場巡視・メンタルヘルス(各5回)をテーマに、計13日、大阪産業保健推進センターと共催した。

### 7. 近畿産業看護部会

#### I. 定例研修会

1) 第1回研修会

日 時：平成22年7月31日(土) 13:30～16:00  
テーマ：「産業看護職の職務と役割」

講 師：東京工科大学准教授・五十嵐千代(産業看護部会副部会長)

会 場：エル大阪本館6階606

参加人員：82名

2) 第2回研修会

日 時：平成22年10月2日(土) 13:30～16:00  
テーマ：新型うつとは：その傾向と職域における対策

講 師：大阪樟蔭大学大学院教授・夏目 誠

会 場：エル大阪本館5階視聴覚室

参加人員：92名

3) 第3回研修会

日 時：平成23年2月26日(土) 13:30～16:45  
テーマ：「特定保健指導スタートから3年・実践と評価から、効果的な特定保健指導を学ぶ」

講師：坂根直樹（京都医療センター）  
 事例紹介：パナソニック健保、京都工場会2例発表  
 会場：エル大阪本館5階視聴覚室  
 参加人員：90名（会員74名）

II. 産業看護職継続教育基礎コース（大阪産業保健推進センター主催、近畿産業看護部会共催）  
 会期：平成22年9月25日～23年7月16日計10回  
 受講者：54名（保健師32名、看護師22名）

III. 幹事会  
 年5回開催（平成22年3/20、7/3、10/2、12/18、平成23年2/26）

8. 近畿産業衛生技術部会

総会・講演会を平成23年2月5日に開催。  
 座長：佐藤恭子（大阪市大大学院）  
 講師：岩根幹能（住友金属安全健康室・財和歌山健康センター）「高齢労働者の労働衛生管理－エルゴノミクスの改善を中心に－」  
 講師：西川あゆみ（㈱イーブ代表取締役会長）「職場のコンフリクトマネジメント」  
 参加人員：30人

9. 産業衛生講座

開催せず終了を決定し余剰金168215円を地方会事務局に納入。

10. 研究会活動

(1) 産業精神衛生研究会  
 第1回 平成22年5月12日(水) 18:30～21:00  
 エル大阪

テーマ：最近のうつ病ABC  
 座長：富士通KK産業医・谷口智子  
 演者：大阪樟蔭女子大学大学院教授・精神科医・夏目 誠  
 事例から知る「非定型うつ病」について  
 大阪市大大学院准教授・井上幸紀  
 事例から知る「新型・現代型うつ病」について

参加：140名（産精研会員82名・学会員58名）  
 第2回 11月8日(月) 18:30～21:00  
 エル大阪

座長：柏木雄次郎（大阪府立成人病センター心療・緩和科部長）  
 演者：大阪樟蔭女子大学大学院教授・精神科医・夏目 誠  
 「認知行動療法—産業領域への適用」  
 三田病院・吉田悦規「職場復帰を中心に」

参加：123名（産精研会員106名・学会員17名）  
 (2) 職業性筋骨格系障害研究会  
 日時：平成22年9月18日  
 会場：滋賀県大津市 社会福祉法人 びわこ学園医療福祉センター草津（旧第一びわこ学園）

主 題：高齢者／障害児者施設介護職場における腰痛・頸肩腕障害予防－職場見学とワークショップ－ 参加者36名（地方会会員16名・会員外20名）

(3) じん肺研究会：開催せず  
 (4) 労働衛生法制度研究会：休会中  
 (5) 第9回近畿臨床産業医学フォーラム（㈱MSD共催）  
 日時：平成23年2月9日(水) 17:45～19:45  
 場所：ホテルモントレ大阪  
 基調講演：癌の疫学的調査から検診を考える  
 講師：津熊秀明（大阪府立成人病センター癌予防情報センター）

座長：岡田 章（(医)起生会）  
 パネルディスカッション：事業所における癌検診のあり方を考える  
 司会：岡田 章（(医)起生会）  
 パネリスト：木村 隆（近畿健康管理センター）  
 西田 博（パナソニック健康管理センター）  
 五十嵐千代（東京工科大産業保健実践研究センター）  
 久保田昌詞（大阪労災病院勤労者予防医療センター）  
 追加発言：藤吉奈央子（近畿労金健康管理センター）  
 参加人員：126人

11. 協賛事業  
 海外勤務者健康管理研修会（共催：(社)大阪府医師会、大阪産業保健推進センター）

12. 地方会役員選挙の実施  
 地方会役員会選挙を実施し、地方会長に車谷典男、監事に植本寿満枝・広田昌利、代議員116名、代議員の互選で近畿選出理事に園藤吟史・大脇多美代・車谷典男・廣部一彦が選出された。

第59回近畿地方会総会会場地図



代議員の皆さまへ

総会の前に代議員会を開催いたします。代議員の方  
 にご出席下さい。  
 時間：12:10～12:50  
 場所：大阪市立大学医学部学舎4階 小講義室1  
 ◎本ニュースに同封の「総会および代議員会出欠確認」  
 用のハガキを6月7日(火)必着でご返送下さい。  
 昼食の準備はしておりませんので、予め済ませてご来  
 場下さい。  
 ※幹事の皆さまへ  
 10:50～12:00に幹事会を開催いたしますのでご  
 予定おき下さい。

## 平成23年度近畿地方会事業計画(案)

### 1. 第59回近畿地方会総会および学術講演会

日 時：平成23年6月18日(土) 13:00～17:00

場所：大阪市立大学医学部学舎

I. 地方会総会

II. 学術講演会

### 2. 第51回近畿産業衛生学会

日 時：平成23年11月5日(土)

場 所：奈良県立文化会館(奈良市登大路)

学会長：夏目 誠(大阪樟蔭大学大学院教授)

I. 一般講演

II. 特別講演

III. シンポジウム

### 3. 代議員会

第1回 平成23年6月18日(土) 大阪市立大学医学部学舎

第2回 平成23年11月5日(土) 奈良県立文化会館

### 4. 幹事会

第1回 平成23年6月18日(土) 大阪市立大学医学部学舎

第2回 平成23年8月 大阪市立大学医学部学舎

第3回 平成23年11月5日(土) 奈良県立文化会館

第4回 平成24年2月 大阪市立大学医学部学舎

### 5. 近畿地方会ニュース発行と地方会ホームページ更新

年4回(86号～89号)発行予定。地方会ホームページを適時更新し、地方会会員に迅速に情報を提供する。

### 6. 近畿産業医部会

(1) 第16回近畿産業医部会研修会

☞11p参照

(2) ケースカンファレンス研修会(共催：大阪府医師会、大阪産業保健推進センター)

職場診断5回、産業医職場巡視3回、メンタルヘルス5回を予定

### 7. 近畿産業看護部会

I. 定例研修会(2回を予定) ☞11p参照

II. 産業看護職継続教育基礎コース(大阪産業保健推進センター主催・近畿産業看護部会共催)

III. 幹事会：年4回開催予定

### 8. 近畿産業衛生技術部会

総会・講演会を開催する

### 9. 産業衛生講座

(1) 産業精神衛生研究会

☞10p参照

(2) 職業性筋骨格系障害研究会：2回開催予定

(3) じん肺研究会：1回開催予定

(4) 労働衛生法制度研究会：休会中

(5) 第10回近畿臨床産業医学フォーラム(株MSD共催)平成24年2月8日に京都で開催予定

### 11. 協賛事業

海外勤務者健康管理研修会(共催：(社)大阪府医師会、大阪産業保健推進センター)

### 12. その他

調査研究事業として「近畿産業看護職実態調査」を実施する。

個別課題の論議を深め答申を得るために必要に応じて専門委員会を設置する。

## 追悼 小川捨雄先生

元大阪府職業病センター医師

水野 洋

小川捨雄先生(日本産業衛生学会名誉会員)は2010年10月19日、93歳で逝去されました。小川先生は昭和15年大阪帝国大学医学部を卒業、近畿地方会第2代会長・三浦武夫先生の1年先輩にあたります。



軍医委託生のため軍医として勤務、このため戦後公職追放の措置となり、梶原三郎先生の主催する阪大衛生学教室に復帰されましたが、昭和20年代前半は大阪安全衛生協会、結核予防会大阪研究所に勤務、後半からは富士製鉄(のち新日本製鐵)広畑製鐵所で産業医として労働衛生管理を担当されました。

戦後の近畿地方会の再建は昭和28年ですが、その前史としては昭和24年「近畿労働衛生研究会」の設立があり、小川先生はこの時期から活動されていました。例えば昭和24年には小川先生の提唱で宝来先生、瀬良先生らとじん肺健診を行った成果を中心に、翌25年の第2回研究会で報告されています。

また衛生管理者制度の発足時に、その活動支援と協力を目指し刊行された「労働科学通信」(大阪市)の第1号(昭和24年7月)の特集「暑熱と労働」は「三浦・小川両氏を中心に聴く」を中心に編集されており、「労働衛生の先駆者」という論壇では、先生は「ラマツチニ」「ラヴォアジェ」「ハーヴェ」について執筆されています。富士製鉄に移られてから戦後復興・発展期の鉄鋼労働衛生に大きく寄与されました。「鉄鋼労働衛生」紙の「鉄鋼業にける労働衛生10年のあゆみ」(昭和36～45年：第20巻)などが参考になります。

昭和34～61年にかけて産業衛生学会理事、昭和45年には神戸で第9回日本産業医協議会を主宰され、このときは新日鐵広畑労働専門部長でした。昭和49年に「大阪府職業病センター」(のちに大阪府勤労者健康サービスセンターと改称され、平成13年に廃止)が開設されました。地方自治体最初で唯一の施設で、梶原先生が準備段階に関与され、新日鐵広畑病院長の小川先生も協力され、所長(非常勤)の任に当たられました。5年後の昭和54年に退任され、以降は京都工場保健会顧問、大阪労働安全衛生大学理事も務められました。

激動のほぼ一世紀を、労働衛生の分野で生き抜いて来られました。ご冥福をお祈りいたします。(東北関東地震・津波大災害と福島原発事故災害拡大の報をききながら記す)

## 会員の声



### 人生を振り返って

三井住友銀行大阪健康サポートセンター  
立間 治人

私は1954年に、当時比較的裕福な家の長男として生まれました。小学校の低学年までは何不自由のない生活を送っていましたが、ある日突然父の会社が倒産し、以後貧困な生活を送ることを余儀なくされました。(しかし当時はあまり貧富の差を感じない時代でしたので、引け目を感じることは余りありませんでしたが・・・)しばらくした後父は再起し新しい事業を立ち上げましたが、程無くして胃の痛みを訴えたため病院を受診し、胃潰瘍の診断で内服治療を受けていました。その後、症状が持続するため詳しい検査を受けたところ、胃癌と診断され手術を受けました。しかしすでに手遅れの状態で、結局私が中学2年の時に他界しました。

そんな父親をみていましたので、将来安定した仕事に就いてほしいという母の希望もあり、高校3年生の時に医学部進学を決めました。母子家庭で金銭的な余裕がないため現役合格を目指し頑張りましたが、残念ながら希望は叶いませんでした。しかし希望を捨てき

れず、親戚の援助もあり、一年限りの条件付で浪人することが許されました。ところが、予備校に入り、期待にこたえようと当初頑張り過ぎたため、夏を迎えたころ体調の異変を来しました。食欲が低下し、頭の中に鉄の輪がはまっているような症状が出現し、テレビもまともに観ることができなくなりました。母に連れられて、某大学病院の脳神経外科を受診し頭部CTの検査を受けましたが、異常所見はありませんでした。その後、カルテは精神科にまわされ強度のストレスからくる“うつ状態”との診断を受けました。まさか自分が精神疾患に罹患するとは考えてもみなかったもので、かなりショックを受けました。それでも主治医の指示に従い、約3ヶ月間通院・投薬治療を受けた結果症状は軽快し、翌年の3月に無事志望校に合格し、医師になる事ができました。

大学卒業後約20年あまり循環器内科を中心とした臨床医療に携わってきましたが、約8年前より現在の産業医の仕事に従事しています。最近若い人でメンタル不調を来す人が増えています。専属産業医になりメンタルヘルスに深いかかわりを持つことができたのも、何か運命的なものを感じます。昨今医師不足といわれていますので、今後体力・気力の続く限りは医療の道に携わっていきたいと考えています。



### 堺の海を見つめながら

大阪労災病院 勤労者予防医療センター  
米山 貴子

「会員の声」を執筆している折、三陸沖を震源とした大きな地震が発生しました。被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。普段、海とともに穏やかに生活をしておられたであろう方々の津波による被災、胸が締め付けられる思いです。

私は今の職場に移ってこの春で3年目となりました。医師・理学療法士・管理栄養士・事務部門と保健師の私という、多職種のスタッフが協力し合って過労死予防対策を中心とした働く世代の健康のサポートを行っています。職場のある大阪府堺市には高石市、泉大津市にもまたがる堺泉北臨海工業地帯が存在し、大きな活動拠点の一つとして月に数回はこちらへ赴いています。

私は海のない都道府県の最南端であろう奈良生まれ奈良育ちの盆地っ子であり、小さいころから海は観光で行くあこがれの場所というイメージでおりました

(もちろん奈良の人すべてがそうではありませんが)。大人になってからも海が見えると気持ちが高ぶります。海岸線を見て「日本の輪郭だ!」と叫ぶ私に友人の頭からハテナが出ていることもしばしばです。このような私ですので、初めて堺泉北臨海工業地帯の近くを走る高速道路からの景色を見たときは、大変興奮したことを覚えています。

今では工業地帯へバンを飛ばしていくことや、大小さまざまな船が行きかう南港の風景、そこに響く工場の機械の音が大好きになりました。

今被災地では、故郷の風景が一変してしまったことで心に傷を負った方がたくさんおられます。現地へ赴いておられた保健師の方々の姿をニュース等で拝見する度、自分が避難所へ派遣されたら何が出来るか、考えます。強い大きなストレスと持病、不衛生、物資不足など…。薬もマスクも何もない環境では保健師の質が問われるであろうと強く感じています。

災害時のみならず日々の産業保健活動においても、保健師ここにあり!と感じてもらえるよう、経験や知識・豊富なアイデアや柔軟性などしっかりと培って励んでいくことを、堺の海から東北の海へ気持ちを馳せながら改めて決意しています。

## 会員の声



### 『技術と心理(ソフトとハード) のコラボレーション』

財団法人 京都工場保健会  
佐本 一

3月11日に発生した「東日本大震災」で被害に遭われた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復興を祈念いたします。

2月5日、大阪駅近くのユーズ・ツウ会議場において日本産業衛生学会近畿技術部会並びに心理技術研究会の共同講演会が開催されました。

当日は技術部会副会長の田中茂先生の挨拶からはじまり、住友金属工業安全健康室（財和歌山健康センター健康事業部部長）の岩根幹能先生、(株)イーブ代表取締役会長の西川あゆみ先生の講演が行われました。

岩根先生からは、高齢者は身体的能力の低下を補うために、視覚情報をより多く取り入れることで対処しようとする。そのため高齢者にとって視覚機能を維持すること、適切な視覚環境を形成することが安全の継

続のためには重要であることが示されました。

高齢者対策という表現は、『高齢者のため』という印象を受けますが、働いている人すべての快適な職場環境の形成につながります。早い時期から高齢者対策を行うことが最終的には負担コストの軽減化にもつながると感じました。

一方、西川先生からは、人間関係の再構築の手法について講演が行われました。人間関係がこじれるという状況は誰にでも起こりうる事象です。普段は忘れがちですが、人間関係のこじれによってコストが発生すること、それが場合によっては非常に多額のコストともなること、また発生したコストを誰かが負担していることなどをあらためて認識できました。

今回の共同講演会の企画は、技術部会の会員である自分にとって、心理技術研究会から知識と情報を得ることができ大変有意義なものでした。普段接することが少ない分野からの情報と刺激を得ることのできるよい機会であったことを報告させていただきます。

次回の共同講演会、どのような企画で行われるのか、楽しみにしています。



### 大学教員の仕事

大阪市立大学大学院医学研究科  
都市医学大講座 産業医学分野  
佐藤 恭子

今回2回目の投稿です。1回目は大阪市立大学大学院医学研究科 産業医学に採用されたときでした。あれから丸6年の月日が経ち、大学生活にどっぷりひたっております。仕事内容をお話させていただきます。教育に関しては、医学部3回生には講義と1～2月の修業実習、4回生には講義があります。さらに大阪市立大学の特徴とっていいと思うのですが、5回生では臨床医学の教室と同様にBed Side Learningがあります。1グループ4～5人の学生が1年間通して（計19グループ）教室にやってきます。われわれ教員の講義や演習だけでなく、5事業所の産業医の先生やスタッフのご協力の下、職場巡視などの産業保健についての実際を体験してもらっています。研究に関しては、男性就労者を対象としたコホート研究（The Kansai Healthcare Study）を行っております。その中の糖尿

病発症予防に関する論文をいくつか取り上げてみますと「通勤時の片道歩行時間が0～10分以内に比べ、21分以上歩く者は糖尿病の発症リスクが有意に減少した。（Diabetes Care 2007；30：2296～2298）」、「飲酒と $\gamma$ -GTPと糖尿病発症の関係では、中等量（16.4～42.6gエタノール/日すなわち日本酒換算で約0.7-1.8合/日）の飲酒者でかつ $\gamma$ -GTPの低値（5～29 IU/L）群が最も糖尿病の発症リスクが低く、非飲酒者でかつ $\gamma$ -GTPの高値（59-1357 IU/L）群が最も糖尿病の発症リスクが高かった。（Diabetes Care 2008；31：1230～1236）」、「非飲酒者に比べ、週4～7日、飲酒日に日本酒換算で0.1～2合飲酒する群では糖尿病の発症リスクが有意に減少した。（J Epidemiol Community Health 2011 in press）」などです。決して非飲酒者に飲酒を勧めるものではないことをお断りいたしますが、産業保健に還元できるエビデンスであると思われます。最後になりましたが、写真は今年の修業実習生と教室員が私の誕生日を祝ってくれたときのものです。和気あいあいとした雰囲気の中でこれからも楽しく仕事をしたいと思っています。



## 私たちの職場 (21)

### (財) 近畿健康管理センター

保健師 嵯峨 裕子

私が(財)近畿健康管理センター(以下KKC)に入社したのは平成元年です。当時の職場の印象は、まず「健康診断機関だよな。なのに、何。」事務所内を見回すと、お世辞にも整理整頓されている状態と言えず、雑然としており、やたら灰皿が多く、私は、「こんな中で、保健指導を推進できるのかなあ。」と思いました。

当時、KKCは健康管理機関とはいえ、健康診断事業が大半を占めており、安衛法が求める事後指導まで実施する(できる)事業場はまだまだ限られているのが現実でした。その事業場の健康管理の支援が、保健師としての業務の中心でした。

私たちが健康管理を支援する事業場の就労環境は異なります。仕事の形態などを考えながらの健康指導は、社会経験の乏しい私にとっては至難の業でした。「少しでも健康に目を向けていただき、生活習慣改善していただければ」と願い指導させていただくのですが、「仕事が忙しく、それどころではない。」と突っぱねられ、「なんで食べたいものを我慢せなあかんねん。今はなんともないで…」と、なかなか真剣に取り組んでもらえませんでした。自覚症状を伴わない所見が疎ましくも感じられました。

しかし、継続的に事後指導を進める中で、前回データとの変化に興味を示す方が増え、食生活や運動習慣の改善に取り組むことで「検査結果の変化」を実感する方が見られるようになりました。

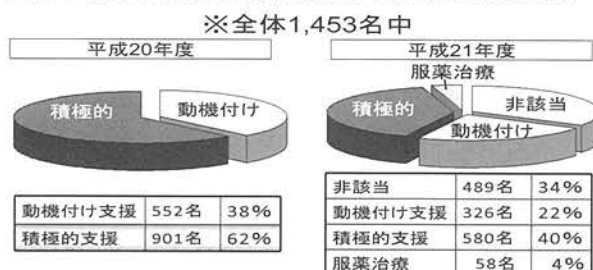
私自身、一人でも多くの方に「食生活や運動習慣の改善のきっかけ」を提案し、取り組んでみると必ず改善を実感していただけるという自信ができてきましたのもこの頃です。

さて、20余年が経ったKKCはどうなったでしょうか。職場から灰皿は消えています。敷地内完全禁煙も達成できました。職場は整理整頓され、職員の意識向上と大きく変化しました。その結果として、統合マネジメントシステム(ISO9001、ISO14001)・プライバシーマーク(PMS)の認証も取得できました。

気がつけば、私も2児の母になって、立派?に子育てしながらも業務に携わっています。後で知ったのですが、KKCの育児休暇取得第一号だったようです。今や、『くるみん』マークの認定を受けるほどの育児休暇取得率となり、身を持って、日々の職場環境の改善を感じています。

もう一度、本業の健康指導の話に戻ります。平成20年度より保険者に義務付けられた特定保健指導に、KKCは積極的に取り組み、多くのお客様の指導を実施させていただきました。手探りで始めた特定保健指導も初年度は積極的支援1,156名、動機づけ支援663名になりました。従前より、安衛法が求める事後指導をご支援してきた事業場が中心です。完遂率は積極的支援71.2%・動機づけ

図1) 平成20年度特定保健指導受診者の翌年度の階層化状況



支援63.2%と、初年度にしては上出来だったと評価しています。体重・腹囲を指導前後で比較すると、どちらも28%の減少率となり、改善率は約65%でした。加えて図1に示すとおり、翌年度には支援レベルの改善もみられました。

これを受けて、二年目以降の保健指導では初年度以上の成果を期待いたしましたが、初年度と同様の成果に留まりました。前回に引き続き指導対象となった方からは「昨年挫折したので今年は止めておく」というネガティブな声と、「昨年がんばったけど目標達成できなかったの、今年こそがんばる。」というポジティブな声をいただきましたのを機に、保健指導終了後にアンケートを取り始めました。

アンケートでは、私たち指導者の対応には一応に良い評価をいただく反面、目標達成できなかったことについてご自身を責めておられることが多かったというのが印象です。健康を考える良い機会になったと答えてくださる方が多く、特定保健指導を実施することの効果を感じております。

このような様々な声を参考にしながら指導方法の改善に今後も継続的に取り組み、良いサービスを提供したいと思えます。

最後になりますが、KKCは特定保健指導や従来の事後指導以外に、THP事業や運動・栄養・メンタル・禁煙など、広く健康づくりや健康増進のお手伝いもしています。

ほとんどは集団指導が中心になりますが、健康に関する基礎知識の提供や啓発活動はとても効果的であると信じています。糖尿病教室を継続的に実施された事業場から、事業場全体の「所見のあった人の割合」が減少したとの報告をいただきました。

若い指導者は集団指導の経験がまだまだ少ないのが現状です。何度も練習を重ね、先輩の指導を受けながら取り組んでいます。練習する中で、日々成長し、より良い指導につながっていくことを期待しています。

私たち指導を担う保健師・栄養士・健康運動指導士は、それぞれ切磋琢磨し、成長し続けたいと思います。

## 地方会研究会活動報告

### 職業性筋骨格系障害研究会活動報告

研究会代表 滋賀医大 社会学講座衛生学  
埤田 和史

職業性筋骨格系障害研究会は、2010年9月に滋賀県草津市の「びわこ学園医療福祉センター草津」（以後、「びわこ学園」と略す）を会場として、「重度心身障害児者施設における作業関連性運動器障害予防のためのワークショップ」を開催した。重度心身障害児者施設では入所者への介護・看護に伴う作業負担に起因して腰痛や頸肩腕障害など作業関連性の運動器障害が多発することが知られている。今回、ワークショップを共同開催した「びわこ学園」は、「重症心身障害児者施設における腰痛の予防について」と題して基発第71号が1975年に出されるきっかけとなった施設である。「びわこ学園」は1963年に重度心身障害児者施設として開園している。開園後すぐに腰痛や頸肩腕障害が職場の健康問題となり、1973年には腰痛や頸肩腕障害患者の多発により施設入所児の一時帰宅を余儀なくされるころまで追い込まれた歴史がある。こうした経過を反映して1975年に先の通達基発71号がだされた。その後、施設職員の増員や介護機器の導入、腰痛・頸肩腕障害検診に基づく健康管理が取り組まれたが、入所児童の成長に伴う体重・体格の変化や入所障害者の高齢化・重度化により、介護・看護職員の腰痛や頸肩腕障害が近年深刻さを増している。こうした状況を受けて、職場の労働実態を踏まえた対策を検討することを目的に、ワークショップ形式による研究会を、「びわこ学園」安全衛生委員会、産業衛生学会作業関連性運動器障害研究会とともに開催した。

施設を巡視しその結果を踏まえての小グループでの検討と全体検討という流れでワークショップを勧め、こうした運営上の制約から参加者数は36人を上限とした。当日は「入浴場面」「高床での介護・看護場面」「床での介護・看護場面」を課題に、安全衛生委員の案内で業務場面を巡視し、作業環境や作業方法について検討した。身体の変形が強く移乗や安静時姿勢にも特別の配慮が必要な職場の様子にワークショップ参加者は驚いたようだった。介護施設や病院での安全衛生管理経験者が、「びわこ学園」では既にリフトやスライディングボード、腰痛予防ベルトの利用が定着している点についてその経過を問う場面もみられた。グループ別の検討を経て、床での食事介助場面での不良姿勢、ストレッチャーからベッドへの移乗場面でのスライディングシートの利用方法など、いくつかの改善課題が抽出され、全体の検討を経て具体的な取り組み方法を提示することができた。「びわこ学園」安全衛生委員からは「新鮮な視点での問題指摘と解決提案がためになった」との事後評価を得た。研究会としては、今後もこのような現場研修を企画していく予定である。

### 「第9回近畿臨床産業医学フォーラムを開催して」

当番世話人（医）起生会  
岡田 章



本学会近畿地方会の研究会である近畿臨床産業医学フォーラムが平成23年2月9日18:00より、約120名の参加者を得てホテルモントレ大阪7F「アマリエ」にて開催された。最近では年1回が定例開催となり、今回は「事業所における癌検診」をテーマとした。

労働安全衛生規則において、労働者の生活習慣病の発症、増悪予防を目的に定期健康診断項目に血中脂質、血糖検査が組み込まれているのは周知の通りである。癌も又、明らかに生活習慣病であるにも拘らず、癌に関する検査項目は一切含まれていないのが実情である。片手落ちの感がぬぐい切れないと云える。

事業所で癌検診を実施する意義とは、性・年齢別からみたターゲットにすべき癌とは、臓器特異性検査項目は、対費用効果は、等々について現状での問題点と考え方を整理しておきたいということが今回の目的である。

基調講演として、「がんの疫学的調査から検診を考える」と題し約60分、大阪府立成人病センター がん予防情報センター長 津熊秀明先生から豊富な疫学的調査を基に、明解に分析してお話し戴き、目からうろこのような内容も幾つか御教示戴いた。

次いで(財)近畿健康管理センター理事長 木村隆先生、パナソニック健康管理センター副所長 西田博先生、東京工科大学 産業保健実践研究センター長 五十嵐千代先生、大阪労災病院 勤労者予防医療センター部長 久保田昌詞先生より、各々の立場から日頃の御経験を踏まえ、事例報告も加えて詳細にお話し戴いた。津熊先生を交えたパネルディスカッションでは、近畿労働金庫健康管理センター 藤吉奈央子先生からの追加発言を始め、フロアーからも活発な意見が交わされた。予定の時間を40分以上も超過したのは、司会を務めた私の不手際だけではないようで、事業所で実際に産業保健活動をしている現場での、関心の高さの現れだと思われた。本日の成果を後日何らかの形として、参加されなかった会員の皆様にもお知らせしたいと思っている。

お忙しい中、御講演戴いた講師の方々始め、熱心に御清聴下さり、貴重な御意見を戴いた会員の皆様、そして共催して戴いたMSD(株)の方々に、末筆ながら深く感謝し厚く御礼申し上げます。

## 産業精神衛生研究会活動報告と今年度のテーマ

地方会産業精神衛生研究会代表

夏目 誠

## I. 研究会の現状

産業精神衛生研究会は毎年2回（昨年度までは3回）活動を行っている。今年度は2回とも100名を超える参加者があり、この領域に関する関心が高いのがわかった。方法は講演形式とシンポジウムのパターンのどちらか、あるいは複合で行う。講演後、多くの質問がでる。研究会なので気取らず行けるから「生の声」や質問が多くでるのが特徴である。また、研究会を通して知り合いになる方も多く、ネットワークづくりに寄与している。参加者は産業看護職が最も多く、次いで産業カウンセラー、産業医・精神科医、臨床心理士、その他である。今まで運営が上手にできたのは、事務局の努力のおかげである。感謝の意を表したい。

## II. 第2回研究会の報告

日 時：平成22年11月8日(月)午後6時30分から9時  
 テーマ：「認知行動療法」

## 1. 「産業領域への適用」

大阪樟蔭女子大学大学院 夏目 誠

## 2. 「職場復帰を中心に」

三田病院 精神保健福祉士 吉田悦規

座 長：府立成人病センター心療・緩和科  
 柏木雄次郎

上記の「認知行動療法－産業領域への適用」をテーマに行った。私は、1. 産業現場の事例、2. 妥当でない「こころの癖」、3. 自動思考、4. 気づき、5. 「5つのコラム法」をキーワードに講演した。事例では「べき思考」から「こうできたら良いのになあ」への考え方の修正法について、説明をした。次に、吉田先生から実技を交えた講演が行われた。その後、活発な質疑応答がなされた。

## III. 今年度のテーマ

1. 6月20日(月) エル大阪 午後6時30分から9時  
 テーマ：「パーソナリティ障害の職場における気づきと対応」

座 長 大阪市大準教授 井上幸紀

講 演：大阪樟蔭女子大学大学院教授

精神科医 夏目 誠

シンポジウム 座 長 夏目 誠

シンポジスト

みずほファイナンシャル大阪健康開発センター所長 廣部一彦  
 産業衛生学会地方会産業看護部会長 大脇多美代

2. 11月14日(月) エル大阪 午後6時30分から9時  
 テーマ：「職場における発達障害の理解と対応－アスペルガーを中心に」

座 長 丸山総一郎神戸親和女子大・大学院教授

「精神科医の視点から－事例を中心に」

大阪樟蔭女子大学大学院教授

精神科医 夏目 誠

「心理の視点から」

(勸林精神医学研究所 岡山EAPカウンセ

リングルーム 臨床心理士 谷原 弘之

## 第51回近畿産業衛生学会のお知らせ

## 【第1報】

第51回近畿産業衛生学会を平成23年11月5日(土)近鉄奈良駅から徒歩5分の奈良県文化会館で3会場を使って行います。

一般演題、シンポジウム、講演などを予定しています。特別講演は、名古屋大学精神科教授の尾崎紀夫教授に「うつ病」について講演をしていただきます。

## 【事務局】

大阪樟蔭女子大学心理学部夏目研究室(担当：稲田)

〒639-0298 奈良県香芝市関屋958

TEL 0745-71-3137(内線565) FAX 0745-71-3142

E-mail: kinki-sangyo@osaka-shoin.ac.jp

(http://www.pref.nara.jp/dd\_aspx\_menuid-1717.htm)

※詳細は別途お知らせいたします。

## 会員の異動(敬称略)

## 新入会員

松下 佳子

全国健康保険協会 兵庫支部

西田 博

パナソニック 健保

藤村 英一

藤村耳鼻咽喉科医院

矢原 規考

自衛隊舞鶴病院

西部 俊三

西部クリニック

玉本 ルミ子

(株)関西メディカルネット

今川 かおる

京都工場保健会

飯藤 順一

飯藤産婦人科

辰田 仁美

和歌山労災病院

西村 範行

神戸大学大学院医学研究科 疫学分野

瀬古 晃督

シスメック(株)

坂根 直樹

京都医療センター

山本 将之

適寿リハビリテーション病院

山下 淳

近畿健康管理センター 大阪事業部

中村 信男

和歌山健康センター

山本 香苗

関西大学保健管理センター

菱本 晴美

関西大学保健管理センター

米田 友美

日立金属(株)山崎製造センター

石田 保晴

三和会永山病院

堤田 美鈴

本州四国連絡高速道路(株)

仲義 弥生

GS ユアサ

勝田 吉彰

近畿医療福祉大学

永田 文雄

京都市城南診療所

松本 珠美

全日本空輸(株)

塩見 美恵子

富士通(株)

坂本 順子

コニカミノルタビジネスエキスパート(株)

浦崎 明子

大阪高島屋診療所

小澤 珠美

コクヨ(株)

牛呂 有加

京都工場保健会

西澤 弘太郎

西澤クリニック

## 再入会

前田 和美

## 産業看護部会からのお知らせ

### I. 産業看護部会研修会報告

日時：平成23年2月26日(土) 13:30～16:45

会場：エルおおさか(府立労働センター)

参加者：90名(会員74名 非会員16名)

テーマ：「特定保健指導 スタートから3年」

～実施と評価から、効果的な特定保健指導を学ぶ～

①事例紹介：パナソニック健康保険組合  
村嶋美保子保健師

京都工場保健会 井手陽子保健師

②グループディスカッション・各グループ発表

③講義 テーマ「見えてきた効果・見えてきた課題」

講師：京都医療センター予防医学研究所室長  
坂根直樹先生

<感想>藤吉奈保子(近畿労働金庫健康管理センター)

特定保健指導の開始から3年が過ぎ、健康意識を高める人がいる一方で、毎年発生する新規のメタボ対象者、一度改善したのに、次の年はまた対象となるリバウンドする方の対応に、“自分の保健指導ってこれで良いの!?” “体重と腹囲が減ればそれで良いの!?” など日々悩ましく感じていました。

2題の事例発表では同じような悩みを持ちながら、色々な視点、手法を変えて取り組んでいる様々な取り組みが紹介されました。

坂根先生からは指導する側も毎年同じことに着目するのではなく、『昨年は糖尿だったので今年は脂質に重点を置こう』など視点を変えて保健指導に取り組むという方法が提示され、“そういう気持ちで取り組めば良いのか!”と少し気が楽になり、自分自身が数値に囚われていたなあと感じました。

また対象者が“管理されている”という意識が強いとリバウンドし易いという事も紹介され、保健指導のあり方として、対象者が主体的に目標を設定し行動することの重要性を改めて感じました。

体重や腹囲といった数値目標は非常に評価し易い一方で、私達産業看護職は数値を見ている訳ではなく、対象者自身を見ているという原点を思い出させてもらえるような内容の研修でした。次年度以降、特定保健指導に限らず全ての保健指導において、対象者が主体的に健康管理意識を向上することが出来るような関わりを持ちたいと思いました。

### II. 2011年度研修予定

<第1回>

日時：7月9日(土) 13:30～16:30

会場：エルおおさか本館7階709会議室

テーマ：「これで納得!労働安全衛生マネジメントシステムと産業看護職の役割」

講師：島村紘二氏(島村安全衛生研究所)

JISHA方式OSHMS評価員

中災防公認KYTインストラクター

中災防大阪安全衛生教育センターRST講師

話題提供：三菱樹脂長浜工場総務部 西川幸位保健師

キヤノンMJ(株)人事部人事部

(安全衛生課)中村千賀保健師

## 産業医部会からのお知らせ

### 第16回 近畿産業医部会研修会のご案内

日時：平成23年9月3日(土)午後2時～午後5時

テーマ：働く人々への健康支援「特定保健指導がもたらした変化」(仮)

会場：大阪市立大学 医学部学舎4階大講義室(大阪市阿倍野区旭町1-4-3)

対象：産業医、産業看護職、人事・労務・産業保健実務担当者

\*申込につきましては後日PRいたします。

第16回 近畿産業医部会研修会実行委員会事務局

(実行委員長 森岡郁晴)

## 産業技術部会からのお知らせ

昨年度(平成23年2月5日土曜日)技術部会・心理技術研究会のコラボ企画による講演会を開催いたしました。参加者は30名でした。講演会の内容は「快適職場作りに向けたソフト・ハード面からのアプローチ」として、多様化する社会、職場の快適環境の問題について二人の講師から講演をして頂きました。岩根 幹能(住友金属工業 安全健康室、(財)和歌山健康センター 健康事業部 部長)先生は「高齢労働者の労働衛生管理～エルゴノミクスの改善を中心に～」内容は高齢労働者が快適に仕事をできるように、「年齢のバリアフリー」を意識したエルゴノミクスの改善方法や事例の御紹介して頂きました。西川あゆみ(株)イーブ 代表取締役会長)先生は「職場のコンフリクトマネジメント」内容は職場のいざこざや対立は表面化していても隠れたコストになり、職場の生産性にマイナスの影響を与えます。シンプルメディアーションという技法で対立関係への介入方法や解消方法を学ぶことで隠れたコストの削減だけではなく、チームワークや協力関係の醸成にも役立つことができるということでもあります。今年度も総会と講演会を企画したいと思いますが、先生方のご意見要望をお待ちしております。次のメールアドレスまでお知らせください。

tkawai@jisha.or.jp 河合。

追伸 今回の東日本大震災で多くの方が被災され、また東京電力福島第1原発からの放射性物質漏れが大気、海水、食物の汚染をおこしています。

技術部会としましても、被災者にお悔やみを申し上げます。特にこの放射性物質の測定、保護、予防について技術面から考える機会も考慮に入れていきます。

### 地方会費納入のお願い

地方会年会費2,000円を同封の振込用紙で郵便局から振り込んで下さい。

口座番号：00980-6-120808

加入者名：日本産業衛生学会近畿地方会

近畿地方会員は、日本産業衛生学会正会員に限りませんので、確認のため会員番号をご記入下さい。振込用紙の控えを領収書に替えさせていただきます。あらためて領収書の発行はいたしません。総会当日に地方会年会費の納入を受け付けます。

## 幹事会議事録

平成22年度第4回幹事会議事録

日時：2011年2月21日（月）18：00～20：30

場所：大阪市立大学医学部学舎 18階会議室

出席：車谷・清田・廣部・大脇・廣田・植本・西尾・河合・夏目・宮上・上田・圓藤・木村・小泉・河野・鮫島・竹村・中西・篠岡（順不同・敬称略。以下同様）

欠席：岡田章・山田・森岡・埴田・久保田・佐野・日高・藤吉・宮下

（平成23年度新幹事出席：岡田邦・鈴木・伊藤・伊木・久保・土手）

### 1. 審議事項

#### 1) 平成22年度事業報告（案）

清田副会長から、資料（3頁）に基づき説明があった。

#### 2) 平成22年度決算報告（案）

清田副会長から、資料（2頁）に基づき報告があった。2月末日の収支が確定した段階で、会計監査を受ける予定である。

#### 3) 平成23年度事業計画（案）

車谷会長から資料（5頁）に基づいて説明があった。看護部会で実施していた調査を、本地方会の調査研究事業として位置付けることになった。

#### 4) 平成23年度予算（案）

車谷会長から資料（2頁）に基づいて説明があった。過去5年間の決算実績を基に、近畿産業衛生学会開催費を10万円増加すること、3部会（産業医部会・産業看護部会・産業技術部会）の助成金を各5万円増加することなど、新しい提案も含めて承認された。3)の事業計画案に沿い調査研究事業として、事業費に調査研究費100,000円を新設する。また日本産業衛生学会と産業医・産業看護全国協議会開催準備のために、各50万円ずつ積立金として計上する。

#### 5) 新幹事の役割担当（案）

車谷会長からの提案が異議なく承認された。

#### 6) 来年第52回近畿産業衛生学会の開催について

車谷会長から和歌山医大保健看護部教授森岡郁晴先生を学会長として開催することの報告があり、承認された。

#### 7) 第59回近畿地方会総会（6月18日（土）・大阪市大）の準備について

廣部理事から、若年労働者のメンタルヘルスをテーマにする予定などとの説明があった。

#### 8) その他

①近畿地方会産業歯科保健部会発足の準備について  
歯科保健部会立ち上げ推進のために、産業歯科の先生にオブザーバーとして幹事会に参加いただくことが諮られ承認された。今年度経費は予備費から執行することも了承された。

②近畿産業衛生学会の一層の活性化について  
車谷会長から、顕彰制度を設けるとの提案があり承認された。顕彰制度の具体的内容や選定基準については運営委員会で作成することとなった。

### 2. 報告事項

#### 1) 地方会新ホームページの完成

中西幹事より報告があった。平成23年1月12日に新ホームページを開設、月に1回の更新予定で、更新内容は広報委員で検討していく。

#### 2) 第51回近畿産業衛生学会（11月5日（土）・奈良）の進捗状況について

夏日学会長より、特別公演は「最新のうつ病」で、名古屋大学精神医学教室の尾崎教授に依頼、懇親会は猿沢荘で開催予定である旨の報告があった。

#### 3) 本部理事会報告

圓藤理事から、大前理事長が再選され、公益法人化に向けて定款の改正やICOH学会誘致の準備などが進められているとの報告があった。

#### 4) 地方会ニュース発行についての報告

中西担当幹事から、5月15日発行に向けて順調に進んでいるとの報告があった。

## 新習慣、大豆サイダー。SOYSH誕生!

まるごと  
ダイス

さわやか  
炭酸

「えっ!大豆の栄養をまるごと!?!」  
豆乳や豆腐では取り残してしまう、「おから」の成分まで、大豆の力をあますことなく、まるごと・粒粒にしました。  
※100%大豆

「えっ!大豆で、こんなにおいしいの?」  
大豆特有のにおいや後味が苦手な方も、さわやかな炭酸でおいしく楽しくお飲みいただけます。

コレステロール  
ゼロ

1本あたり  
51kcal

大豆たんぱく質  
7%以上

※大豆アレルギーの方はお控えください。

Otsuka

大塚製薬株式会社大阪支店  
〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40  
TEL: 06-6441-6532

## 編集後記

去る3月11日に発生した東日本大震災から約2ヶ月が経過しました。被災された多くの方々にお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申し上げます。この未曾有の自然災害に対して、私たち地方会員一人ひとりがそれぞれの立場で、地域、職域を越えて復興へ向けた取り組み、支援を今後も積極的に、かつ継続的に行なっていきたく思います。

また、近畿地方会としても災害時の安全衛生を含め、働く人々の健康を守るべく一層活動を強化したいと思います。（宮下）

### 編集委員（五十音順）

大脇多美代（編集責任）  
河合 俊夫 木村 隆  
鈴木 純子 竹村 芳  
中西 一郎（広報事務局）  
藤岡 滋典 宮下 和久